

拡大する世界の所得較差 ——粗世界生産の10分位分布——

大 谷 龍 造

Increasing Gini Coefficients of Gross World Product

Ryozo Otani

This note reports the Lorenz distribution of gross world product among the decile groups of world population according to gross national product per capita. The period accounted extends from 1969 to 1990. Data were mainly taken from *World Tables 1991*, and *The World Bank Atlas* for each year, prepared by the International Bank for Reconstruction and Development. The remaining unoffered figures were estimated by the author. Naturally, the figures are not satisfactorily accurate. So the presented figures are subject to continuous revision, as the additional data becomes available.

Nevertheless, the author likes to point out that there is a steadily increasing trend toward inequality in the gross national product per capita among the world population. The calculated Gini coefficients increase from 0.6576 in 1969 to as high as 0.7275 in 1990. The series of the coefficients seems to be under the influence of the two oil-shocks in the seventies.

The realized increasing rate of the coefficients may have been reduced from the one which should be when there were no official and non-official development assistance of more-developed countries to less-developed ones. But such assistance is not likely to level the series down in the future. Because almost all of the former high-income countries are already suffering from imbalance in both intersectorial and international payments, as well as accelerating environmental pollution.

最近の *International Financial Statistics* によれば、いわゆる先進国の1人当たりの粗国民生産（以下ではGNPと略記する）は2万ドルを超え、スイスのそれは3万ドルを超えている。他方、そうした高所得国の百分の1前後の所得水準の人口も、軽視しえない大きさを持っている。1990年の統計によれば、世界人口の1割が世界所得の57%の分配を受け、2割では83%の分配を受けている。それかと言って、最低所得の国々の人達が集団としての生存の危機にあるわけではない。むしろ、低所得国の人口増加率は高いのが普通である。

要は生活水準の問題である。しかも、多様なマスコミが一般化し、航空機による国際間の往来が大衆化した今日では、生活水準の差は特に低所得国民に強く意識され、政治的圧力となり、かつての植民地支配の償いが要求される。そのとき、ヨーロッパ諸国による償いの不足を補って登場したのがアメリカである。第2次大戦中の生産力の拡大と、国際収支の多額の黒字とを背景に、アメリカは低所得国等の経済援助に乗り出した。

その後、ベトナム戦争を境とするアメリカ経済の相対的な競争力の低下と共に、次第にドイツや日本に対する要求が強まり、当初は必ずしもそうではなかったが、高所得国の低所得国に対する経済援助は当然視され、義務視されるようにまでなっている。低所得国の経済開発に関する国際会議等では、経済援助の望ましい水準とか内容とかが勧告されている。援助提供国のGNPの1%以上が提供され、その過半が政府開発援助であり、返済義務等を伴わないものであることが要望されている。

しかし、高所得国内の政治・経済的な諸条件は国際的な要求に十分に答えるものではない。特に、石油危機を境として、主要な高所得国では、財政収支と国際収支とが共に赤字に陥っている。そのため、多くの失業者を抱えながらも、十分な失業対策を行えないのに、より多くの国際貢献を求められている。それが、多くの高所得国の姿である。国際貢献税を創設すべきであるという専門家等からの発言はあっても、その創設が政党の支持基盤を強化することは考えられない。

そうした状況の中での各種の有償や無償の資金の提供は、世界的な物価騰貴を促進させ、殆どの低所得国の相対的な所得を低下させている。提供された資金に比例して実質需要と実質供給とが増加するならば、物価が資金提供前の水準を維持することに無理は少ない。しかし、現実には供給側の改善は要求される水準に達していない。直接には生産基盤の改善に投入された資金も、低所得国の二次的な需要をより多く増加させる結果になっていると判断せざるをえない。

そうした観点から、*World Bank Atlas* (以下ではWBAと略する)と1991年版の世界銀行発行の*World Tables* (以下ではWTと略記する)とを基礎にして、これらの資料の欠落を筆者自身の推計値で補い、粗世界生産の10分位値とジニ値とを1969~90年について算出したのが、以下の表である。

推計に当たっての最大の問題点は、ソ連のGNPの推計であった。ソ連のそれを除外するよりも、不正確な数値のものでも除外しない方が、ジニ値の歪みを小さくすると考えたので、ソ連のGNP推計値がWBAから直接に得られない年次については、ドル表示による1人当たりGNPがYugoslaviaのそれと比例的に変化したものと見なした。

ソ連については、アメリカの中央情報局の数値があるが、推計の方法が世界銀行のものとは全く異なる。改訂を加えて利用することを考えて、幾つかの試算を行ったが、上記の方法より妥当であると判断されるものは得られなかった。結果としては、ソ連は、取上げた22年間を通して、第8分位と第9分位とにまたがり続けている。

ソ連、中国、Yugoslavia以外の東側13か国では、ソ連と同じ方法か、前後に世界銀行の推計値のある空白部については、ドル表示の1人当たりGNPが定率で変化するという仮定による推計かが採用されている。なお、中国とYugoslavia以外の国でも、Hungaryについては1977年以降、BulgariaとPolandとについては1982年以降のドル表示の1人当たりGNPがWTに集録されている。

以下の計算諸結果が示す、多くの事実の中で筆者が最も注目するのは、所得分配の不平等度を

示すジニ値が石油ショック等の影響を受けながらも、趨勢的に増大していることである。その結果、第1分位に対する第10分位のG N P比は、1969年に48倍強であったものが、1990年には109倍弱になっている。

1969年に第1分位に属した人口の47%強が1990年にも第1分位に属し、4%弱が第2分位に属している。それらの諸国は、Bangladesh, Bhutan, Burundi, Cambodia, Chad, Ethiopia, Laos, Malawi, Myanmar, Nepal, Somalia, Tanzania および Burkina Faso, Mali, Rwanda である。India は、人口の9%が第1分位、67%が第2分位、24%が第3分位に含まれる水準から、53%が第2分位、47%が第3分位に属する水準に動いている。

そのすぐ上に位置する中国は、22%が第3分位、46%が第4分位、32%が第5分位である状態から、11%が第3分位、47%が第4分位、42%が第5分位に属する状態へと、約10%ずつ上方へ移っている。

他方、1969年に第10分位に属した人口の約88%が、1990年にも同じ分位を占めている。抜けたのは、Australia, Bahamas, Kuwait であり、新たに加わったのは、Finland と日本である。後者は、共に1969年には第9分位に属していた。前者の3国は、いずれも1990年には第9分位に属している。それ故、これらの諸国の分位間での移動は、それ程には大きくないとも言える。ただ、Finland と日本とは、第10分位でも高い位置にあるので、1人当たりG N P 増加率が平均を大きく上回っている。

ドル表示の1人当たりG N P の水準は、1969年から1990年にかけて、平均で5倍弱になっている。この倍率が高いのは、台湾の26.1倍、韓国の23.5倍、日本の15.3倍、Singapore の14.7倍、香港の14.6倍、Finland の11.9倍、Saudi Arabia の11.4倍、Spain の10.3倍などである。米国のそれは、4.6倍弱で、世界の平均以下である。

粗世界生産の10分位分布

(単位：百万US時価ドル)

年次 分位	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975
1	29,627	32,052	33,887	34,190	38,835	46,549	54,233
2	36,123	40,580	41,793	43,483	49,801	57,587	69,258
3	38,058	43,557	45,332	46,925	52,564	60,426	70,512
4	39,735	46,113	48,194	50,025	56,467	64,785	71,295
5	40,792	48,155	51,861	53,745	56,997	65,667	76,537
6	78,991	83,963	89,524	95,729	107,646	129,987	151,554
7	163,704	182,139	195,280	213,510	257,099	317,540	374,618
8	386,788	433,486	488,306	551,099	625,387	716,607	809,652
9	632,064	709,708	792,116	919,787	1,116,494	1,297,844	1,498,994
10	1,422,753	1,528,767	1,683,519	1,893,004	2,210,899	2,526,562	2,870,759
計	2,868,636	3,148,520	3,469,812	3,901,497	4,572,189	5,283,554	6,047,412
年央人口 (千人)	3,612,312	3,689,056	3,765,129	3,848,071	3,921,315	3,999,093	4,074,006
1人当たり (ドル)	794	853	922	1,014	1,166	1,321	1,484
ジニ値	0.657577	0.652620	0.656887	0.664277	0.667778	0.664428	0.662061

年次 分位	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982
1	59,890	60,472	65,897	71,287	81,908	90,739	93,977
2	68,055	71,777	81,627	87,384	106,711	122,687	128,978
3	71,273	78,491	92,045	105,781	124,741	138,070	141,564
4	72,205	80,221	94,516	113,600	133,389	145,776	147,404
5	84,631	93,620	109,372	126,823	147,070	159,442	162,483
6	178,592	202,353	223,154	253,048	292,554	323,092	335,785
7	429,246	479,828	543,365	629,117	703,685	746,628	751,045
8	902,065	1,020,780	1,155,090	1,346,089	1,531,226	1,698,264	1,689,095
9	1,667,448	1,899,522	2,804,890	2,804,890	3,270,630	3,552,287	3,578,042
10	3,287,243	3,670,556	4,163,805	4,802,490	5,429,806	5,925,943	5,993,228
計	6,820,648	7,657,620	8,797,490	10,340,509	11,821,720	12,902,928	13,021,601
年央人口 (千人)	4,149,711	4,222,412	4,297,849	4,371,514	4,450,406	4,532,326	4,611,703
1人当たり (ドル)	1,644	1,814	2,047	2,365	2,656	2,847	2,824
ジニ値	0.667986	0.669973	0.670256	0.671898	0.669677	0.668772	0.667803

年次 分位	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990
1	93,569	94,133	96,570	99,302	100,761	103,225	105,546	110,480
2	132,152	132,468	138,691	143,085	152,985	165,536	175,093	178,346
3	142,716	146,206	148,259	147,213	152,985	168,783	181,888	186,340
4	148,086	154,864	157,396	150,979	155,688	172,136	184,736	194,391
5	158,475	159,121	159,890	156,706	160,828	174,151	185,349	194,552
6	321,566	308,009	293,992	285,600	254,941	258,508	273,303	283,227
7	723,795	714,741	697,252	690,468	699,910	717,408	773,507	862,810
8	1,600,508	1,567,019	1,547,455	1,577,125	1,496,338	1,601,150	1,644,799	1,656,972
9	3,522,895	3,459,215	3,413,789	3,562,072	3,753,591	4,474,357	5,010,446	5,322,267
10	6,139,560	6,571,684	6,956,162	7,552,043	8,508,418	10,112,717	11,190,151	12,030,022
計	12,983,322	13,307,460	13,609,456	14,364,593	15,436,445	17,947,971	19,724,818	21,019,407
年央人口 (千人)	4,691,986	4,774,413	4,858,115	4,948,168	5,032,013	5,121,422	5,211,152	5,296,776
1人当たり (ドル)	2,767	2,787	2,801	2,903	3,068	3,504	3,785	3,968
ジニ値	0.672619	0.680005	0.685771	0.695041	0.708173	0.719464	0.723848	0.727509

備考：WT 1992による1990年の粗世界生産は21,020,431百万ドル，1人当たりGNPは3,979ドル，ジニ値は0.727071である。